

社会科学習指導案（歴史的分野）

日 時 平成30年 6 月 1 日（金） 第 1 校時

対 象 1 年 4 組 3 6 人

指導者 教 諭 外 園 舞 美

1 単 元 「古代までの日本」

2 単元の考察

本単元は、農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目し、事象を相互に関連付けさせることによって、日本列島における国家形成、律令制による中央集権国家の確立、古代の文化と東アジアとの関わりなど、古代までの日本の特色を理解させることを主なねらいとしている。この時代は、日本列島の誕生以降、大和政権による統一が進み、隋や唐の制度を取り入れて律令国家の建設を成し遂げた時代である。また、対外的には、朝鮮半島に進出した倭の勢力が、唐や新羅の台頭により撤退を余儀なくされながらも、遣隋使や遣唐使の派遣により積極的に制度・文化を取り入れた時代でもある。国内・国外の様々な困難を克服しつつ、律令制が完成し古代国家が成立していった。

生徒は中学校生活にも慣れ、意欲的に学習に取り組んでいる。小学校において、狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和政権による統一の様子の3つの歴史的事象を具体的に調べることを通して、むらからくにへと変化したことを学習している。アンケートによれば、小学校6年生で日本の歴史を学習していることもあり、歴史的分野に関心をもつ生徒が32人（88%）と多い。しかし、原始から現代までの時代の中で関心がある時代は、「古代」3人（8%）と答え、関心が低いことが分かった。また、「古代」の日本に関しては、女王卑弥呼や大和政権など歴史的事象の理解は断片的な知識に留まり、相互に関連付け、その時代の歴史的な意味を説明するまでは至っていないことが分かった。

指導に当たっては、古代までの日本の特色を大観するために、「国家」という概念を中心にどのようなようにして国家は成立するのか、その成立の過程を探っていく。まず、日本列島の誕生から農耕が広まる弥生時代までの歴史を、考古学などの成果を基に生徒に読み取らせ、自分の言葉でまとめさせる。次に、日本各地に国が誕生し、最終的には大和政権によって、日本が統一されるまでの過程を、東アジアの動きと関連させながら理解させたい。そして、国内・国外の政治や社会の変化に着目させ、その関連について考察させることで、国家としての日本の姿が明らかになってくると考えた。その際、生徒の既習知識を考慮しながら中国の歴史書や実物資料などを基に、トゥールミン・モデルを用いて根拠と論拠を重視し、古代の特色について考察させる。この単元の内容は、まだ解明されていない部分が多いため、最新の情報等も授業の中に取り入れながら、現在も研究が進められていることを意識させ、歴史を学ぶ楽しさを感じさせていきたい。

3 単元の学習内容の構造化



4 単元の目標

- (1) 日本における国家形成の過程について関心を高めさせ、意欲的に追究させる。
(社会的な事象への関心・意欲・態度)
- (2) 大和政権による統一と東アジアとの関わりなどについて、多面的・多角的に考察させ、その過程や結果を適切に表現させる。
(社会的な思考・判断・表現)
- (3) 古代の人々の生活に関する具体的な資料を読み取らせ、図表などにまとめさせる。
(資料活用 of 技能)
- (4) 大和政権による統一の過程や東アジアとの関わりが日本に与えた影響について、関連付けて理解させ、その知識を身に付けさせる。
(社会的な事象への知識・理解)

5 単元の指導計画と評価の重点（全4時間）—— 評価（授業中）—— 評価（授業後）

主な評価場面と学習内容 (基本的な知識)	時間	評価 規 準				主な言語活動の 具体的場面
		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 of 技能	知識・理解	
縄文文化と弥生文化 縄文・弥生時代の人々のくらしについて理解する場面 ○縄文土器 ○貝塚 ○たて穴住居 ○弥生土器 ○土偶 ○稲作 ○吉野ヶ里遺跡	1		縄文・弥生時代の資料から、それぞれの時代の特色を考察し、適切に表現している。 【ワークシート】	縄文・弥生時代の人々の生活の様子を様々な資料から読み取ったり、図表などにまとめたりしている。 【ワークシート】		《説明》 縄文・弥生時代の遺物等から、当時の人々の生活の様子について説明する場面
邪馬台国と東アジア 奴国や邪馬台国が中国へ使いを送った理由について考える場面 ○邪馬台国 ○奴国 ○卑弥呼 ○魏志倭人伝 ○朝貢	1		中国の歴史書から、社会の変化や日本と東アジアの関係について考察し、適切に表現している。 【ワークシート】		日本に小さな国々が誕生する過程を理解し、その知識を身に付けている。 【ワークシート】	《説明》 中国の歴史書を読み取り、社会の変化について説明する場面
大王の時代 大和政権が東アジアに繰り返し出兵した理由について考える場面 ○大和政権 ○前方後円墳 ○百濟 ○高句麗 ○渡来人 ○倭の五王	本時		日本が朝鮮半島へ繰り返し出兵した理由から、大和政権の勢力の広がりについて考察し、適切に表現している。 【ワークシート】	日本が朝鮮半島へ繰り返し出兵した理由について、古墳時代の資料から読み取ったり、図表などにまとめたりしている。 【ワークシート】		《読み取り・解釈》 中国の歴史書や古墳時代の遺物から、日本の国家形成の過程について読み取る場面
単元のまとめ 日本列島に国家が成立した過程をまとめる場面 ○奴国 ○邪馬台国 ○朝貢 ○大和政権 ○倭の五王 ○渡来人	1	古代までの日本について関心を高め、意欲的に追究し、とらえようとしている。 【観察】	古代までの日本を大観し、その特色を多面的、多角的に考察し、表現している。 【ワークシート】			《読み取り・解釈》 東アジアとの関わりに関する資料から、日本の国家成立について解釈する場面
全4時間における各評価観点の配当時数		①	3+①	1+①	①	①数字は、授業後に行う評価の回数を表す。

6 本時の実際（3／4）

(1) 主 題 「大王の時代」

(2) 本時の目標

ア 日本が朝鮮半島に繰り返し出兵した理由について、古墳時代の資料から「根拠」「論拠」を基にまとめさせる。(資料活用の技能)

イ 日本が朝鮮半島に繰り返し出兵した理由から大和政権の勢力の広がりについて考察し、適切に表現させる。(社会的な思考・判断・表現)

(3) 主題の考察

本時は「日本列島の誕生と大陸との交流」の3時間目に当たる。この時代、日本列島では各地の豪族が大和政権を中心に結びつきを強め、大陸と交流しながら、国内外への影響力を高めていった。特に、鉄資源の確保や先進的な技術の吸収の必要性から、朝鮮半島への関心は高く、その盛んな交流の様子は、高句麗好太王碑文や古事記・日本書紀など国内外の資料から理解することができる。また、中国や日本列島との関係により、高句麗、新羅、百濟、任那が複雑に対立や連携を繰り返し、朝鮮半島の情勢は変化していった。そのような複雑な情勢の中、大和政権は東アジアの国々に対立や協力を繰り返しながら、勢力を拡大していった。

生徒は小学校で、古墳について調べることを通して、大和政権による国土の統一が進められたことを学習してきている。アンケートによれば、生徒は古墳について豪族や大王の墓であること、埴輪や様々な副葬品が収められていることなどを理解している。しかし、大和政権の支配の様子については「九州まで支配していた」など範囲を説明することはできても、どのように支配を拡大したのか、またその支配が拡大する過程において、その頃の東アジア諸国との関わりについて触れる生徒はほとんどおらず、大和政権が成立するまでの過程や背景についての知識は断片的なものであることが分かった。

指導に当たっては、導入で日本の朝鮮への出兵史をまとめた年表から、古墳時代の日本が繰り返し出兵していたことに疑問を持たせ、学習課題を設定する。展開では、出兵の理由を資料に基づいて考察し、大和政権が日本列島内だけでなく、広く中国や朝鮮半島と関わりを持っていたことから、大和政権の成長に東アジアとの関わりが重要であることに気付かせたい。その際、この時期の朝鮮半島と日本列島それぞれの変化を資料から読み取らせ、それらが互いにどのように関係するかを考察させ、自分の言葉で表現させる。さらに、どの資料も東アジア・日本列島の発展に深く関連があることを理解させた上で、もう一度、自分自身の表現を推敲させ、古墳時代の日本列島が、中国や朝鮮半島との関わりの中で一つの政権に統一されていったことに気付かせたい。また、この時代の歴史については、まだ解明されていないことや、資料の解釈にも様々な説が存在することも事実であるが、この時代までの日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察する力を培っていきたい。

(4) 研究に関する指導の工夫

【手立て①】 ツールミン・モデルを用いて、意思決定・価値分析・表現（提案）を行わせる工夫
日本が朝鮮半島へ繰り返し出兵した理由について、古墳時代の資料を「根拠」にして、「論拠」を明確にしながら表現させる。（実践編1 pp36～37）

【手立て②】 自己の主張に内在する価値を明確にさせるための資料の分析と提示の工夫

日本が朝鮮半島へ繰り返し出兵した理由と大和政権と地方の豪族との関係から、大和政権の勢力の広がりについて考察させる。（実践編1 p36）

(5) 本時の展開

主な発問や指示	時間	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	情報提示の方法と内容
<問題把握> ○ 3～5世紀の日本は朝鮮半島とどのような関わりを持っていたのだろうか。	5分	1 資料から、日本が朝鮮半島とどのような関わりがあったかを考察する。 2 学習課題を設定する。	1 日本の朝鮮半島への出兵が古墳時代に集中していることに気付かせる。 2 朝鮮半島に繰り返し日本が出兵していたことに興味を持たせながら、学習課題を設定する。	資料 日本の朝鮮出兵の歴史簡易年表
なぜ古墳時代の日本は繰り返し朝鮮半島に出兵したのだろうか。				
<本質究明> ○ 古墳時代の日本と朝鮮半島はどのような状況だったのだろうか。	10分	3 高句麗好太王碑文に記された、倭国と朝鮮半島の国々の様子について考察し、出兵の理由を予想する。	3 古墳時代の倭の様子を確認させ、出兵とどのように関わるか予想させる。	資料 高句麗好太王碑文
○ 倭はなぜ朝鮮に出兵したのだろうか。	10分	4 資料を基に、3～5世紀の国内の様子、大陸の様子を考察し出兵の理由を表現する。	4 国内の変化、大陸の変化を、資料を基に考察させ、相互に関連づけて論理的に説明させる。 (実践編1 pp36～37)	ワークシート ツールミン・モデルを用いたワークシート 資料 古墳時代の日本・東アジアの様子
【資料活用】 日本が朝鮮半島へ繰り返し出兵した理由について、古墳時代の資料を「根拠」にして、「論拠」を明確にしながらまとめることができる。				
○ 倭がなぜ繰り返し朝鮮半島に出兵したのか、もう一度考えよう。	15分	5 グループで出兵の理由について意見を共有し、発表する。	5 班で協働し、資料を基に出兵の理由を考察させ、繰り返しの理由を検討させる。 (実践編1 p36)	資料 磐井の乱
【社会的な思考・判断・表現】 日本が朝鮮半島へ繰り返し出兵した理由から、大和政権の勢力の広がりについて考察し、適切に表現している。				
<洞察> ○ 古墳時代の特徴をまとめよう。	10分	6 本時の学習をまとめ、古墳時代の特徴を振り返り、ワークシートに自分の考えを記述する。	6 朝鮮半島に出兵した理由の考察を通して、大和政権が国内で勢力を広げていったことに気付かせる。	ワークシート

□ は評価場面、 ○ は授業中における評価観点、 □ は授業後における評価観点

(6) 主な資料

資料 1 鉄鋌



これらの鉄鋌は、昭和 20 年に奈良県宇和奈辺陵墓参考地の旧陪冢ろ号から出土したものである。この陪冢からは鉄鋌 282 点、小鉄鋌 590 点が出土しており、出土した鉄鋌の総重量は約 140 kg に及ぶと推定されている。鉄鋌は、朝鮮半島で製作されたものと考えられており、それ自体が鉄素材であるという説や、あるいは権威を示す宝物としての性格が考えられている。

「宮内庁書陵部所蔵資料」より

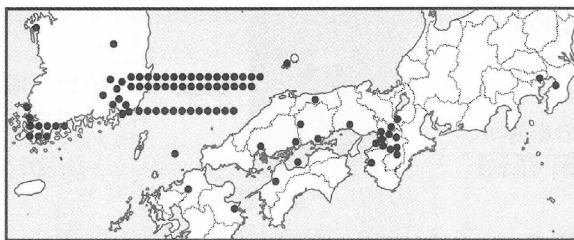
資料 2 渡来人の組織化

集団名	おもな仕事
陶作部 すえつくり べ	須恵器をつくる す え き
韓鍛冶部 からかぬ ち べ	鉄などの金属を加工する きんぞく か こう
錦織部 にしごり べ	絹織物をつくる きぬおりもの
鞍作部 くらつくり べ	鞍などの馬具をつくる ば ぐ
史部 ふひと べ	記録をする き ろく
画部 えかき べ	絵をえがく

大和政権は、高度な技術を持つ渡来人のを編成し、さまざまな物資や進んだ技術を取り入れた。

中学歴史資料「学び考える歴史」より

資料 3 鉄資源と朝鮮半島(鉄鋌出土地) 資料 4 高句麗好太王碑文



ビジュアルワイド「図説世界史」より

新羅・百済はもともと高句麗に従っていたが、倭が391年に海を渡り、百済・加耶・新羅を征服した。その後、百済は倭と交流を深めた。そこで高句麗の好太王は平壤におもむいた。そのとき倭に攻めこまれている新羅が援軍を求めてきたので、好太王は歩兵・騎兵5万人を派遣した。その軍が新羅に着くと、倭の軍は退いた。

資料 5 岩戸山古墳



九州最大級の前方後円墳で、全長約135m、後円部径約60m・高さ約18m、前方部幅約92m・高さ約17mを測る。墳丘周囲には幅20mの周堀と外堤を持ち、外堤を含めると全長約170mの大前方後円墳となる。筑紫国造磐井の墳墓とされ、6世紀前半の築造と考えられている。

「岩戸山歴史交流館資料」より